線の勇苦を関ばれるためには周囲の將官に理能闘る御沙汰あ

で、我等皇國臣民ハ國ニ報ゼン

互ニ信愛協力シ

島田四郎中尉

鮮

督

南

郞

疆内二千三百萬同 一心報效の決意を

新と共

「立意」出版で

ロラ皇道ヲ宣揚セン 殺苦蟾蜍力ヲ養

原語る今日深山路は雪もよび 害に明くしじまの町に原因る 格波がめし進上と雪に來る

的は更出いくを夜の雪

せんと思ふ。といて、度んで資壽の高蔵を壽ぎ奉り、紀元二千六百年の新春を聖職下に迎ふるにあたり、煕

十四手初頭より、風よ御覧が あるところである。 気後国民もひとしく「福歌のほどに感謝 一せられる御政務、御此務は、市 を加へっせられ

間に我る阿凱内閣の政立など、對支政政の低に、年初匆々近衛内閣の総跡戦、平沿内閣 のにも、国際情勢は彼め ある。まことに恐怖に

突縮を飾らせられるため消役神代の弧時大然に飢餓揺然ばる魔妻と凱艦隊、掲北に従職を御下用なと鵬り、破縁の第土の魔妻と凱艦隊、掲北に従職を御下用なと鵬り、破縁の第土の

を融るなど、保証なる機能を賜つたのである。 從武官を、四月職合職等へ配酬礼官を、南支に山道武官を

御船らもまた三月多原御陵御根理の御途次、東京府下の第

れた

三月來、魔穴にわたつて支那用残風像者の総功行為、五月

成る動物政策にも跨端

への反撃、六月汕崩攻略、ノモンハンの日ソ北陸衛突、九月 が呼くいかが 五月改浪県上陸、ノモン 言語版の磁版は、様々た る内外の遊師、彫力は が越境ソ党

能下には、これら勇武なる将士の破跡を指は御輩ば、1方概

部解決、日譲ツ國境側定委員出館と、直接間接に蔣政徽の除

聖上の御精勵 御休養の御寸假さへ拜せず

天成の様はされて、土泉圏が上にもあがつたのであつた。 野学・取浄の楽山・日に帰っ世に及ばせられ、諸が属との 野学・取浄の楽山・日に帰っ世に及ばせられ、諸が属との 野学・取浄の楽山・日に帰っ世に及ばせられ、諸が属との 東が・成浄のにあった。 あった。疑惑に除ける耐切下に開助する将士は脳液のさまを融合健康に行奉、黙認の大洋にお召戲が門を進め給うたので 市総下韓世院安士官県投行幸の時における単立つ若茂の威 一教技天殿、七月わが海の最際は、太平洋上殿下とした住在

四の御内意から破格にも賜懿の御沙汰あらせられたことは特 學士院會員、內閣書記官長以下、司法長官 か、このうちにも、時局下荷明御史際の歴代と、静明家伽母 と限制なる側距を押したのであった。

年と銅礁り もあらせられず、細歌器まど 甲族子でじょしたかいるうちにも、宮中の銅線既はじめ、諸師行事、凡て事 耐天皇を餌祭碑とする大阪局下の皆幣中此水無郷館を水無謝 四百年式年祭と、 京帝大板揮武雄助習版を召され解天郎の御平賦、御口徴につ 歌かせ給はず、黒朝黒宗御歌景の眼母では、十綱門、 脚質と創改権、質諧大能に列せしめられ、三月の高化天息十 はじめ、伊六十三院散水臓の また、漁館や城市及び火州町、モルロイド南北の火災などで加盟。

ろであった のであつた。一般赤子感謝おく能はざるとと下脂あらせられたり、見舞はせられたりした

ヒ政教に影響する大なるものがあると仰せられ、司直に従ふ ものに對し俗動放射、法の威信を指揚するために強すやうに と樹民の腐乱とを保持する所以にして、其の運用の処何は異 大策院を初め七法冊に行掌、販語を開はり、司法は國家の安慰 親しく創院裁、また、政和所構成法施行五十年に隠して

たいた及が高の郷天子の、紫虹の歌く歌きに影響を示されたとなった。まれたの歌を歌台による水和朝敬親に至っては、たと物歌のための歌き歌台による水和朝敬親に至っては、たと歌事を、いづれも様子るだに迎き聞みと申すべきに、まして歌事 の宮中御階所に於ても、「は風機、氷柱を斥けさせ給よ御慣脈 個日常、御神自動車中に木炭車を加へさせ給うたと、

氏に苦る近衛師派の部職のもとにおける極語、中の他、去る秋本の頃、県殿下楼開主衛の 四月の後島羽天島七百年式年祭には夫々東 施選、天池の大水ボ

曾有の職史的職機期たる階級権第である。而して俗も本年は日本来である。而して俗も本年は日本来 世界歴史の一大既換期たるの動設 ることにより、独等は空風散散 要を組み、是國日本の本然を意識 も含み、近に天意の消大なるを 神武建國が天孫以來、詩正、祖 巨形を進むる年たると同時に、 際気なる歴史を除てて原因の事

で見る。以て麒麟を始、地间防烈、金曜支の避難互明脱粉に融らんとし、棚底的には日 な れを驯取の目的に馬士は第に人意思は合作の前途を連踏すべく、こ を脳からしむるものがある。 はない。 はな等をして其の禍心を はな等をして其の禍心を はないらざると共 だいます。 はないらばるはなからしません。 はないないないないないないないないない。 依然存在するに對し、妨害せんとする意闘の

御 0

し、之に介入一新達成の洋々たる希望 合むる帝國の優 防國家の完成と興亜維 あれたるにあらず、今日の堅忍こそ高度國 に識の態度は立て つつある事質を譲継するとき、 在

らない。

と協しこの程語の解凝単型に確認し、大を続り鞭撻地に申幸るの能論男 未だ別途辺辺であり、加ふるに今 七個版や遊なる前日の概も明明 の新中央政権の献立目観に迫る

地として内壁一般の質音々として

肺を行ふ割である

一 深と光曜するに国へたつであるが、 大地等は単元の解(たこの画画無比 近の同政都事を配くまでも解える版と まとして回転を部に開るにし立て 重名の形態を含まれる事のでします。 外頭をも挫き、如何なる観光気音 一条って、光郎ある今日

一 別である事下標歌目的を完成せん で大なる成功の場には大なる声音 を引き新たにし一大きむを見て版 のであるに観れる大郎なるを以て介表 **雄がりつゝあるは重ねて限るに出** り将來大に物心率面の重点を直命への所なるが更に前述の主旨に依 と労力が作ふは古年東西共長を一

部を実際に訪問、場件の交 け、また二日は中村の司令 式終了後手王威而に各公安 いで本所の保管式に関う、 に何候、年納の師茨形を言 上、午後は一般ででで

元取中の人時から特に巡離の規範とおける電電流は 戦戦その側番万融の高量が 本師の在城各局部長地に刺

に行はれるが、南部行以下 定と祝賀変璧 二日は印前令 の總督 駢

の典ふ 義之

總裁 川島

旦朝 鲜聯盟國民精神總動

日であると謂は民精神総動員の民精神総動員の日本にも忘れざいて、といの覚悟

天皇が八私一字の大理郡を掲げらと共に囲き給ひし段國士に、神武と共に囲き給ひし段國士に、神武 はならない。 はならない。 はならない。 はなりないと前はなければならない。 はなりながいと前はなければならない。 はなりながいと前はなければならない。 はならない。 はならない。 はないと前はなければならない。 古 あるが、今年こそは指面の腕近に 取って原立器を示記二千六百年を 即、一年度の那種を思加し二大府 かを 新は木根部 前面を 担し二大府 配金 までくる 春報に近つる 今年 の しゅう ひょうしょう こう 第一次的巡ឈ随着を格丁したので 半、その 組織完備し、 職間員の 盟郡成せられてよりここに一年付 加みれば國民郡即心動員別無載

成の下数等配先が抵送一数代属量数の下数等配先が抵送一数代属 には今後更に内外より除すの報告に致し、本般、本自由を熟めまり、先人の能理の来るべきを製書し、先人の能力、先人の

現下皇國の真姿と以來の大業に

AND THE PROPERTY OF THE PARTY O

皇紀二千六百年と

覺え來るのである。 に繋り、無限の競争を

聯

国 栄高雄大なる建國精神 で 惟 ふに此の 興亞維 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の道義的根源は、一種 の単して我が の単して我が の単して我が を機関しつつある。この機能的なる際史の意思は機能一貫し、天梨 なるを疑はないのであに味到せしむる結果と 大後或を楽じて機能権新の標業 超大の努力を掘び長期の忍苦

福神と八松一字の理想を以て、図 盟、重邪の達職を基とし、大和の むるために十世年の長期和最を必 段は一系直統を承げ給ふ。天皇の 内のまつろはさる者をまつろはし るが近く、我等現代の國

今や支那引懸は第四年に入る。

上馬御

韓海県が迎く長道のは大なる 東は底に取り着政権・の原地地方 を除く監視なる投近地域)所に おいて新しき時代を確認し始めた。 な台町には世上県災を衝倒とする ではらればなるなが、

東亞に於ける帝國の優必ずしも疑和されたるにあらず、 の関係は戦刑戦戦の辨確によれて然りと難、邪魔を雙る援将第三国

皇紀二千六百年の新春を迎へて 陸 軍 大 將朝鮮軍司令官

中村

威八紘に輝き國運未捲して茲に四歳、皇師堂々大陸を席

春を慶祝し得るのでの裡にも萬民康寧の

のである。

この更新が崩刑事

說 社

紀元二千六百年

遠ない。世界史は更

しつ」ある一方東洋

人公とさへならんと 日本は新世界史の主

必然生れ出づるに 民族による新秩序は

新され、歴史は新し

き草を起しつゝある

曾有の隆昌を祝ふ時 春を迎ふる事は、眞紀元二十六百年の新 にこれ 開闢 以來の 盛

to the second second

朝鮮は始政以来三

義の頽廃と相俟つて 一面道

話りを生じ、 る支配體制に漸く その不自然不合理な

> 界支配が崩壊すべ 序は設盛し、アング るも、現在の歐洲秩 なる経過を辿るとす 落滅亡の淵へ急ぎつ 族そのものすらも没 明と共に國家及び民 羅道に堕し、その文人類史上、空前の修

孤立せしめず、こ

局は否應なく日本を も複雑怪奇の國際政

紀元元年となるであ

らう。吾等は断じて 年は恐らく新世界の つた。皇紀二千六百

なる事質である。

Mi

世界史の創世紀であ

滿洲事様は質に新

4

としてゐるのである 設され有史以來始め 日本中心の新秩序建 新政権の樹立により は本年をもつて支那

ての安定狀態を得ん

しつゝある事亦明 動を掴軸として韓回 鍵を楔機として起

日本の東亞新秩序

事質だけは既に明 ロサクソンによる世

を各自の

陣祭に獲得

ある。從つて他

事であり又世界史上

ついある歐米白人はれば、世界を支配し 國際政局を大觀す

ゆる。

ある。戦局が如何

厚なるものあるを受 宏遠、威懐さらに あるから、その意義

一大壯觀と言はね

就中我

窮と皇室の顕榮とを讃ぎ奉る。

して心光を仰ぎ、能みて聖詩の無。 戦闘の新春を迎く起かに東天を無の 野型二千六百年、茲に殿麓に聞く

て星湖の萬分の一に歌い奉らんと

、 られ過速の能なりし時は間に調徳 とのであるが、星園園戦が預測セータ たのであるが、星園園戦が預測セーター して纏りなかりしも、國運は後多に二千六百年、この問皇統連和と 年根原宮に都を災め給ひてより正

の御跡を集けられ紀元元 座さればなられる 世 先人は戦争の苦戦を振して能く現 は天衆疾説の第一歩であり残事が は天衆疾説の第一歩であり残事が 度民輸型の質を見げたる損勢力行 権所は星政復古 天皇親政の下に 正しくこれを明潔してゐる。明治

野恩に聞く落る道である。 野恩に聞く落る道である。 で現代國民の製造なる質がであり

ひ、人的、精神的には である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 では、さんない なんけん なんけん ない かんしょう はいかい かんかい して 思考を放って 大夫なな ずたにせわば

中島市殿の自保と相俟つて自らそ に増ならぬが、三千年の政部と、 に増ならぬが、三千年の政部と、 である。従って今後県殿目的 新政権の間立派近きに在らんとしに則盟の大戦は著々として迎み、 更に眼を観じて時間の削途を辿らならいと思る

増売と取締の高速なるがほとない 達せんには有限無限の両力の制度

神嚴太古を偲ぶ四方拜御儀

はじめ神武天五、大正大島の山

阿那首相以下関係等の拝勘上奏 は自由土田に巡し、時には

展支那級新軍総司令官に宛て夫 に数し本日軍令部次及は及 を観に数し本日軍令部次及は及 を関に数し本日軍令部次及は及

蘭州空襲に

弾張さと揺派する、この間、七、大和建設の古の焼くに揺し着る

のひ奉ることもなく高極歌とし 一にな切。諸真は郷がに下切、の別の御略 一にな切。諸真は郷がに下切、の別の御略 王時過ぎ段雑版に渉師、前頭集の中で、既くも一階下には年前

御稜威輝く拜賀式 難く時れの部勝の翻載を行はせ一

しず中隊を完全に殱滅

聖上御精

上奏書類。年に一萬二千件に及ぶ 年に一人大御心を舐めさせられ

信を持め前が山跡、野県単常では最常四下と側が別にて佛勢神は最常四下と側が別にて佛勢神には、女十二月中側に 七輪ふ即台に成り紀元解祭 するが、統正を以て財富主田と相談邦志らせ給ふ個内証と継承

風夜 頭線脈あらせられる

ыЗ

上に、御田製御似さし 住き 日を語がき給へば年 の格下には側側のにて内別間に いな出側、共文官 同島四男子を さる地域方に個別側は場合に でも地域方に個別地は内地で でも地域の地域を受けてせる られ、大道にて、音音時で、単

面のみでも我()()砲並に空爆によつて敵砲兵七個中脉を完全に破滅し、際の響楽師|選手五日砕雨方面を確保してゐるが、十二月中旬以降同月二十九日迄に判明せる敵の損害は九塘前その都度隨所に猛反撃を加へ荒骸部隊の果敢な爆撃と皇軍獨得の進撃とに依つてこれを撃

成文三十

一日夜發表

我が守備隊撤退

【東京支社特電】日ソ漁業協定は暫定的安結に到達、協定內容は三十 一日夜外務省より發表

皇紀二十六百季 和庚辰亢旦

ては平原に関した、こは反脳から
こつた、しかしこれも役近に至つ

我宫殿下 照月片、孝 ぬ次郎であります

第一面題畫は

皇太后陛下

しては何勢製造の労働地しく

がに光輝るる砂元二千大日年の 新学を贈へ天本崇明の東本貞郎 の無景之まず前相様を採します ことは都に地様に述べさるとこ

松平宮內大臣謹話

に採し等ります、事処野難以来服はしく主機関が上にも制理的

日常の謎事極めて御路索に沙ら相大となく何心を注がせられ細

御心を御心とし給ひ内廷のこと

天皇陛下 には天地のより

政務總監

施売者を見て数十倍するの ・ 一般では一般を一般であるが、 ・ 一般に変数としている。 ・ 一般に変数としている。 ・ 一般に変数と、一般に変数と、 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数としている。 ・ 一般に変数としている。 ・ 一般に変数といる。 ・ 一般に変数と、 ・ 一般に変数を、 ・ 一般に変数

何京朝助けの一覧として別別した

を たっとのであつて、就中軍器 たっ 産業を初め各種國策的を 小型のであらう、 別と見るべきであらう、 別と見るべきであらう、 別と見るできなるのであられ、 前、 女を 迎 他 で変する 全精政策に半島 世 の であるところ絶大 きょう かん こう かん こう いん こん こう いん こう いん

でと不認識の状態を必要とし、」 配する所以である。 職人空中申報 なるもの があるの であ 歌声する時、文脈中監察師には伝 る。 如よの思い大陸中世界地 なっと へい かあるの であ 歌 するところ 絶大 必ずしも 影聴の 球形たりで・日本 の 資歌するところ 絶大

若宅の不安を興へたりと雖も、直七ヶ道を脾へる戦機に食糧職常に ちに国民一般の場際設川対策開立

省級に小著『決定的の勝利へ』を刊行し、惟禮の意

一行うけられることは質に遺憾干萬ではない

でなく、質國民はすべてを曖昧模糊の理に蠢動してを言い

道は大和民族傳統の大精神であり、日本雄の因源である。祭政 商かあつて創発に見える。我國民に於ける敬神堂制、忠孝の大 中も真く擴張せなければならない。一家一國同じく、龍先が心 儀式祭殿を存むにはならない。一家一國同じく、龍先が心 優式祭殿をおければならない。一家一國同じく、龍先が心 の場所を関係を書したる。 ののでは、一家一國の一定の時日に あり、國民的信仰である。此く副先を終るには唯一定の時日に あり、國民的信仰である。此く副先を終るには唯一定の時日に 聖蜂高千穂こそ、我等大和民族の哲学のないをおけれるにあり。 **東しませし聖地を聖淨し、祭** 催に連ず、異くも天孫降臨 子六百年の職業を仰ぎ、政教を完うして初めて皇紀 て聖蔵を記念すべき事業ある。故に茲に國民塾つ思額に落し得らるへので思報に落し得らるへので思れている。

致に車ず、萬國博覧育開は、世界オリムビフィ招

六ケ**月延**長 京峽植民地

「東京三十日出版」 野南支が流域。 きょうて同方面に難時転長したのするに吹したが、深値は断孔 観楽 という、数単はこれが質問の目的は今回資理要なり、影響をという。数単はこれが質問の目的するに吹したが、 深値は断ればない 西郷施設地提出で漁棚に産事してシンガポール十九日同盟 個所に関する英智局の即可由は本

ケ月延長することになった 刻下の急務

「爾皇孫就いて治めよ」これ即ち皇國倫理の出發點であり、

に関し城(自省間では左の坂き諏訪 【東京形画】日本海湾船南社改立 礼設立當局談 日本海代船台

し、文國境方面においてわが収 年八月十四日皆禮の英國常局に到 飲がとれを利用しつつあるので本

る、深川附近は挺勝ルートにして文順増製安は珠江下流の嬰厮であ

多大の関心を有し多年これが主に関してほかねて背局において日本海における排泄の統制関化 れつ、非島に降りた、せ給うた。即ち霧島の高子郎の峰である。 工手百九十五尺、精氣壯嚴の山容、尖霧量を浸し、快時染れば 工手百九十五尺、精氣壯嚴の山容、火霧量を浸し、快時染れば 上での樂淨、その破液を以て、此聖地の崩撃を除き、聖樹を近し、無限の強嚴を以て、此聖地の崩撃を除き、聖樹を近し、無限の強嚴を以て、此聖地の崩撃を除き、聖樹を近し、無限の強嚴を以て、此聖地の崩撃を除き、聖樹を追し、無限の強嚴を以て、此聖地の崩撃を除き、正しりとして、「「」」というという。 下ろさるゝや、彼方に深い霧の海が見え、霧海のさなかに一の科拿は群星を従へられ、今し御降臨遊ばされんと遙々下界を瞰 **詩辞き、食は御携への末項錐を以て霧の海を排き採り掻き採り** 大皇統治の大訓であり、この詔勅を高天原にて承け給うた瓊々

この東地をこの東地をはらに断雲の終ふに住せ、何處に紀元この東地をこの東地をはら、「間瞼の除染ありや、由つて聖輸高千二千六百年の光耀ありや、國民の御協奨を庶畿ふめのである。所く配念大事業を完行、全國民の御協奨を庶畿ふめのである。所く配念神となり、地礁野化清楽届に大等の東側を遠び、大聖林形成の穂を中心となす國立公園霧島一帶の聖地を遠び、大聖林形成の穂を中心となす國立公園霧島一帶の聖地を遠び、大聖林形成の穂を中心となす國立公園霧島一帶の聖地を遠び、大聖林形成の穂を中心となる。所以の東地をはらに断雲の終ふに任せ、何處に紀元この東地をこの東地をはらに断雲の終ふに任せ、何處に紀元この東地をこの東地をはらい

紀元二千六百年を讃 株式會社 社長 大 2

鄁 史

えは結賞され、今や民族飛躍、岡宗建興の聖蔵と単よるこ常の茲に二千六百年、皇統連綸、天壌無窮、萬邦無比の輝く 今や民族飛躍、國家建興の聖蔵を迎ふるに當

元

旦試

筆

京

城

H

また形的期割の形本

賦を完うせ

紀元二千六百年に寄せて

閣參

議荒

貞

夫

日 城東京 郡 一 大 原 原 原

金麗

昄置

概員一同橋稅務署

育志

半

雅亦女 候 想 直食洪 郎 州 高敞漁業組合

意 孫 在

徐麗

高興面職員一同

郎

松鶴

朴设

土胤精米所

理高額中央

均

誠

高坡向女 崔

東

奎

語語中語 央 均高語中語 央 均

R. Seriann

供探先造

男 戦 ヨ ー 間 関 特 ヨ 間 間 財 事務所

中 東 超 超 超 超 量 全 图 亚 褐 邑

省洋服店

祖命長十

龍

13

100

朴

柱

陽

全北區的和與閩

野 東 東 西 田 田 東 新山 面事務所

尹得開報

豆原面事務所

* 質屋製菓所

開筏縮凶

川啓次郎

高

文

直做

金

在

洪

脱結三八帯

外 職 Q 一 同 選 年 間 選 年 間 選 年 間 週 年 間 週

金 炳

後南

橋護造場

理 事 慎 一

秀

達

生事 甲玉

腰髓 淺野喜八郎

職日一同高敞產業組合

祭祀と二千六百年

外數具一同類單面事務所 外職員一

南陽面事務所

會株 社式

稻

語五 E 番 酒 造場

界 報 員 一 原東江面事務所

粗大山金融 鄭世 焕

高敞郡大山面栗村里

全北高 李崔許金李呂中中

紹介 雅介所

闌一玉香春弄玉金**樂** 彩仙順心姫仙珠玉館

盤樓

全北高敞邑 内

뇹 脇 定 雄

門幅

動車

需部

外 職員一同整本 四里務所

占岩面事務所

曹 圭 虎

萬

料理那

4: Œ

小說

П 光

朴紫 根

U

回麥廳

湿郡

樂

梅山鑛業 中本清兵衞

高 华华做

市敞祭業株式會社 報 後 日 一 同

佑

職金

醬聖火奉遷繼

ALPRIENDER AND THE AND THE PROPERTY OF THE PRO

商

全 高敞白

聖地の

能 企 谷 谷

陽自動軍部

Ħ

夜橋飛營 商 大業 受所

> 自 文

高敞郡初等教員會

酸中央政機能立を前にして北支に関税の大方針となってゐるが、大

の横顔

五色旗に埋れた北京雨店街

島

配置

北鮮油脂

来會社

高 次 放業 城

橋

本

吉

减

Œ 浣

精光菜 赤鼠

-秀

番 ---

ľЧ

千年迎ふ

非口組 膝 本

彦

信

和

高城邑内各官公署

藤井宍正特派員記

こして盆々重要性を加ふ

所设 战民郵便所 川 城 W 朝 īļī

П

屋

≖ູ旅

なっ館

内前 藤

吾

野川畑代理店

底分會

朴

永

斌

田高

回漕

旅店

高

城

郡

農

會,

邑會議員

李

潤

韶

43

川

改

₩ ----

JIE.

Щ 公開

油木水 原

肥材 養 安 安

IE

 $\tilde{g}_{ij}^{(r)}$

彩

警城

友

會

井

復興目覧しき

大栗金之助

邑會議員

淳

雅加拉爾

春

滔

OZ El

阻構 商

浩燦 會

曾

根

吾

uß

李四 鍾

神區 庫底水産物

水產業 |

庫

』底 湖村 本水所

医學 院 長箭酒造株式會社

JĘ 料朝 理鲜 111 7 海

水産業 好 菊 治 舘

Æ K =

石原竹次郎

庫底水產製品 江原道通川郡庫底港

田受檢組

脳

庫

底

漁

組

合

一一,

東 翁

榮

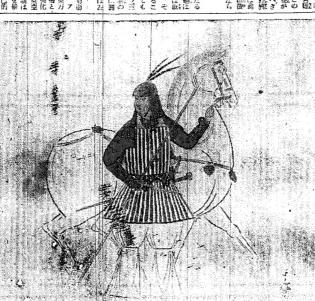
務

所會

海

ı. **新組**

どれ位履くと思



已氏

建 創

岩田 正

筆

思想の動揺と再建 東洋における日本の地位自覺

夷旦や北漢山の見えて高く 新春五題

よきほどに石をあしらひ敷植す **羽手板の似顔は誰と知らねごも** 屋上の松に鳥居に初日かげ 北川左人

股験の掲びつきの仕方において、「独々の戦事」に到流し、事趣陸といってよいであらう。もとより「独」の領其とにある研究行の明測といってよいであらう。もとより「独」の領其とにある研究行の明測と「大陸兵戦基」の領すられた世がは、より会ぎ「内明報を機び癖えて難らる、其患罪」前せられた世がは、より会ぎ「内明なる。この勢力を候談し、この

新日本と科學精神

電話長龍山(4)八四九番

京城府瑞麟町一番地ノー

朝鮮水產開發為

京城中等學校長會

敷 組

京城府永樂町二丁目七十三番地 志岐工業株式會社 電話本局三〇五番

田 中 源

謹而奉賀皇紀

二千六百年之新春

朝

朝

鮮

林

理理性業 小足伊波 開

記や聴講の『大地』で有名な

城大教授

一般同日 とい

々の戦争」はなほ税地に限けられ

あるかかい

を所の印建成理が終止符に判違し

東邦鍍業株式會社

東洋炭業株式會計

京城府三坂通一〇三番地 楠見組京城支店

本

代本

京城精肉商組合

金剛特種鑛山灣會社

床城自動車交通

本 勞

會 株 武

番



上から猛焰を見る

煙波の中を行くのだ、気流に織ひされて毘盧峰の尾根を行くはすの機は同峰の西を迂廻してゐる、丁度前方に長煙波の中を行くのだ、気流に織ひされて毘盧峰の尾根を行くはすの機は同峰の西を迂廻してゐる、褐色の痩せたころに幾色に煙る連峰が見え初めた、觀音連峰だ、恐ろしい早さで機の左右を雲が流れてゆく、空を行くこと約四十五分ごろだつ後、、認ろしい早さで機の左右を雲が流れてゆく、雲か?煙か?煙かるが地上もさることながら上空は猛烈な風だ、恐ろしい早さで機の左右を雲が流れてゆく、雲か?煙か?煙か方に幾(朴磯行士)で北村本府防護課長と同葉、空から終える音峰金剛を視り始めた高度三字米、機の右上空を横断してゆく、空を行くこと約四十五分ごろだつだ、機がグングン上舵を取り始めた高度三字米、機の石上空を横断してゆく、空を行くこと約四十五分ごろだつた。機がグングン上舵を取り始めた高度三字米、機の石上空を横断してゆく、空を行くことのが、気流にに対していた。というが、大型では一日中前十一時半京玻璃行場からフオッカー式ス天下の音勝崇峰金剛の山火事は師走の巷に異橋なセンセイションを積さ起した。オラく名柔。名耳の糞巻と名コ天下の音勝崇峰金剛の山火事は師走の巷に異橋なセンセイションを積さ起した。オラく名柔。名耳の糞巻と名コ天下の音勝崇峰金剛の山火事は師走の巷に異橋なセンセイションを積さ起した。オラく名柔。名耳の糞巻と名コ

86と最るとの限に記者と大塚寫真班は卅一日午前十一時半京城飛行場からフオツカー式 ス山火事は師走の巷に異様なセンセイションを捲き起した、相吹ぐ名刹、名非の類媲と各地

きのふの緊急い

箭港が見え初めたころだ、機の真下にすーと硫黄色の煙が立つてゐる、

する一に使いてあるやうだ。こゝぞと即一た三師方政へ配つた、ものゝ一、

はれる個所に関係したメッセーチ

再び内今剛に向

米の風に抑かれ始めた 製は日本市からの 風速五十三分も進んだと思はれるころから 尼根が、肌が、半面を罅に掩はれて、つひぞ見せた事もない肌合であらはに駆け出してゐる、丁度前方に

の底だ朋方に永川海、田盛館があしゆく、

つてゐる、水品師附近は城も隣し

た時には記者の眼鏡は飛ひ、身間

□ 「石山にて水口村面具件」外金剛、火は脳間の現化のため火は二つに ○ なおって火螺に縦穴は、つっある 安全・なるに至ったので高級、長 ○ なおって火螺に縦穴は、つっある 安全・なるに至ったので高級、長 「日中押出時ごろに至り調く全く 変わって火螺に縦穴は、つっある 安全・なるに至ったので高級、長

げた、砂蝦中の野落域は中後一時の関係が誠は一先の野郷原に引揚 ころそれく、関党、州藩は平断に

・やくおさまり林野郷共配種は四は三十一日午前十一時に至りや 西於個,四百六点班



教授は関しい山の姿をちつ

お」懐 三年の勞苦に感謝の萬歳!……

が、背質ひきれな程の正順を異ない。 いっぱい は ……またしても心こる 真説の ない にメリン止める、見える酸、粉の 列車は最々と響きたて、四く徹を まだ明問もさだかならのホームに を埋めつくした人々は早くも高い手に日の丸の底がもつて廣場 では、三ヶ年の安吉を指ふかのやうに、安でられる重要。 西し取國の誇りは隣場を匿し取 のでいる重要。

出動、河北、山西の設定に

森特派員還る

眞||金

剛

山 Ø 火 41

(龍山意兵分除許可濟)

大ンの野土として野土部隊に推進して土売本前級を設なく軽減して耐々に受害の戦場の揺りがあった土売本前人があった土売本が、の野土として野土部隊に推進産いまえれた限に関係的けし、

・ 要の映郷に場内全く、富蔵の坩堝 ・ 裏の映郷に場内全く、富蔵の坩堝 ・ 電蔵の投資が天を節く・ 関十円

監を吞び動態の試験をたいへる種、 した壁で特兵の武動をたいへる種、

て而上は顔上荒天のため小砂船で

佐

義

路段途についたのだつた、京城歌一い干蔵の帝服が歴を抱きしめたの層根を謎ぐんで見下しながら一一翼の中で記者は窠にあるいたまし の屋根を渡ぐんで見下しながら一 た疑れな山肌を、そして恐れる火|分だつた、四温の景味の恥かな空、袈裟いづと 軽色のぶさまに 題つ | 行期に関うついたのは平登一時十 配色のよさまに 随つ | 行羽に関りつ

坂本特派員記_ 大塚特派員撮影

の削火作業のため食ひとめられ州北里で長前台解防機域北分階な火 日午即八時ほとんど頃火安会に 長箭無事

必要に際じ支出する智である

公司左続望を設出、なほ不足の分

今回の金属山の山火事は昭和上 最初の大火 日産化學工業株式會計日産化學工業株式會計

は原理解説的ならなが同じ入った の末だまでないが大概、三陣州沿 の末だまでないが大概、三陣州沿 のれ首可が、近川州省内村首町が る一方顔々に入る側線と眺して製密棋野技師に跳貝を現地に試験す 所質級局級政闘では現地価格と被行方不明者五名と首つた自僚で本 現在入った報告だけでも死者四名 地元消防負で消し止めたが今度は

産化工商事株

式會

Ą

(i) 変

被害は尨大

一方、三十一日朝鮮朝島長が道職(一方、三十一日朝鮮朝島長が道職 [岩川にて水口特派員館] 江川道館では、確認度教育のためとりあ 日多数を到場に続行、指揮監督中

の庭のない

相風候

和小纸柜充具

京城府岡崎町七十五番地

嶋屋酿造株式育

ili: 吖

取締役社長 戸

鷆

败

為の邁進致度覺悟に神压候間何奉不相疑御思情熏賜り度伏

敬具

下の經濟國軍に順應して本年も更に一層直帰報國の使命に

- 皇紀二千六百年の新春を迎へ前に御同度の玉に奉存候弊社

一新秩序の建設も着を共縮につき星國の國威燦として八絃に

賀

新

Ŧ

| 車中は格別の御医顧師別笠蒙り難有御禮申上候

イ情緒

預覧院中である。 川下城政歴長は

北村防護課長の

道特別會計で

救濟金支出方法

元の重りって派遣女を投下した、御見録女

喪中三付年始缺禮仕候

喪中に付年賀御遠慮申上げます

馬山浦工育議所理事

过城往 型

與然果

H

整岩機製作所

水

城

常

所

位話(長)本局 2 五二二○番 京城府長谷川町九三 惜しいことです

金剛の友――高橋さん談

本社から

昭金鹏の心の友京城造行風山祇師十三回も疑勝のコースを踏んだ名

中缺禮

11:

成北道會戰員

東京東平町

に目的民各位の最大制労力に 蔵の火災間見精中上く構造性

を質し 謹しみて紀元二千六百年の新春 川町 一日から營業致します 京城口報社長 於下

洮

辰

目種業營 L.其コシ鑿

岩

嬔

土木用諸機械 山川 銀 銀 明 川 リンプレッサー

引渡さず?

卸手洗底

邦船にソ不設意

瓦

一日の賢初に御來店の方には粗品を進呈致 電話本局五三五四番

謹迎紀元二千八百年之新春

壽鑛山機製作所

電話本局至七○七八番 京城府長谷川町壹壹武番地

電話本局電七〇七八番 京城府長谷川町豊芸貳番地

两

行

本

H

世名改稱通

似 埈

源

京城府明治町一ノ一〇

山本源作商 電話不局2五一九一番 店

ころが、朝鮮忠神清道の技像と目的のないラチオの就是をやったの歌』といったやうな歌で、頗る ところに住んでゐる朋友の その中からはからずも先音伝の名跡や戦や何が戦せられてあるが、 を見出した時には、それが俳句で

韣

跳れるに及んで、ま

[1]

江景米穀商組合

下條

農

三陟金融組合

平 灣 東 東 忠 東 宮 東 宮 東 宮 東 宮

三沙出張所

1000年

μj

催話七番

林久雄(畫)

群战士

小川

健

泊

П.

景稅務

江景麟酒造組合

伊

賀

倭

治

商

山

糶 李泰鎭商店

遠德漁業組合

Ξ 画 商 店

朝鮮文學の現段階

やうに、財刑三腕にして作れるや 米 三流路線と と節名されてゐた かいはれ得る。桃文宗能認は、従一門語についても同じやうなこと

を がい の二大艦球の出現をみた。 がい この二つの都がは、郷然の記憶が は この二つの都がは、郷然の記憶が は の二大艦球の出現をみた。

息白き老をかへり見行きにけり

女の息男の息の白さかな

高濱

かゞみつゝ何する人ぞ息白し 乞食も恵める人も息白し

船めた、この改造は、理界の大駅

一部が出来ないやうに、さう

15次湖是 大屋

江州 泉

則

士. "

會

七肥醬油釀造場

久我濟生堂 米级商

錦江運輸機會社

江貨邑學校組合

質者千坂雄左衛門

タ 會議員一同

野野 岩崎朝雄

憶諾一五八番

江 景 出南鮮合同電氣株式

江景縣市

愛媛族

舘

配話 | 四二番

商 會

常店

太郎

「でもそれでは除りといふもの」 闷物商 名 本 二 吉 石景恢复所及 李起 中 增 院長金 央 田 三吉 路上市時 商 春 店

野

郡

司

景邑

會

ii.

健員

大 文 変 部 大 覧

三原

一光組

北湖 六九番

會即一助治脩郎

點荒卷醬油脈所

江景公立淑德簡易江景公立宵季公立實科女江景公立宵町縣小江景公立實科女

學學學學學

校校校校校

斯珍二**陟自動車**機以

同

一陟襲造合資會社

贈至 岡 東京 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 松龍蘭 江设西町

永

育

朝鮮米穀介庫株式會社江

京支店

三學

光光 器

狮

때院

Ш

稔

Щ

岸山

直

次

膨

支店長

忠

江

景

. 事 坂縣

邑

千点

雄所

左衞

門

料朝 理鲜

4F 10

電話取次一二六番 姓 女

江景郵便局

制度原南

完乐

江 景邑 錦町 A 友會

道會議員

三陟酒類販賣組合

鶴田洋服店 俄略(ツ) 攵ハ(ッパ)

寅 吉

精米素 鲜江泉邑鹽町 橋 茂 兵衞

職

11

員務

胪

钽

話

六

而

國

泜

場

宫员 造 本西 一木 五七番店

陟

陟

電

湉

-

金

乗組

二 香椒合

el 🖁 組合長

在 注 注 注 注 注 。 日 日 石黃 一唯四

·張會 五 资所 七 番 金

三陟郡所達面

命

壽

	斯	大田皮革株式會社		会に関する。	大田 (韓田) 11 初 月 堂 北 森田 末 肯	大田白米商組合	
大田土曜會	垂	大田三國商會	大田府	(神泉製糸大田・坂政)	金物品 進一和 商 會 平 非 曜 卖 平 非 曜 卖	安藤時計店	A A
	お 職 員 一 同	二邦社食品工場		(原幹中央無	新安井 商店 新安井 商店	東京 大田 販賞所 東京 大田 販賞所 東京 大田 販賞所	
歌 員 一 同一忠清南道立大田醫院	京 徳 都 藤 ·	七番自動車共會社		The Countries of the Co	大田刑務所	九一進送店	加重
大田府教員會	忠清南道纖業協會	山三證券 社	警察職員一同	() () () () () () () () () ()	1	林芝商	軍皇
大田商工會議所	大田 鐵道事務所	加		大島王孝	理高尾邦夫 电影響性系统	を 大田 商店 を では、 一番 大田 商店 を では、 一番 大田 商店 を では、 一番 大田 の 農場 は かん の 恵 に かん の あん の	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
忠清 南道各金融組合聯合會	大田木材商組合	在	食堂會員一同	好而後半	第 岡田耕之助	大田府等目町1 大田安店 原語表記蓋 原語表記蓋 原語表記蓋	新之
忠清南道農會	徳 大大 では、 大大 では、 大大 では、 大田 のでは、 大田 のでは、 大田 のでは、 大田 のでは、 大田 のでは、 大田 のでは、 大田 のでは、 では、 大田 のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	大田菓子商組合大田菓子商組合	佐々木直司	(金融) (金融) (金融) (金融)	藤 安	第四次 四村哲文 即	街
高湯金藤 大安 一二 一	万事資局大田山張所 造 組	各公立小學校長	晨 一 人	なり、た	本語 大会 大会 大会 大会 大会 大会 大会 大	1 五軍	
文 京三之衙	稅	外	安藝芳人	(大田原工等開所を限)	大田調保險診療所	安井金之助安州金之助	
四 百 番 會	忠淸南道水產會	式株油醬	室田寅雄	青柳兮选	忠南共同運輸組	# 爭 寬 體 拔 天 工 務 所	力印具
忠南土木建築協會	大田線棉工場 親籍新織株式食社		学生がお	李相松	大田醫師會	河野庸二郎	(+)

場所 朝鮮ホテル 場所 朝鮮ホテル (金融版を長) 順井代夫(都高、城大権登散を) 脚の内脈 (金融版を長) 順井代夫(都高、城大権登散を) 野部所 かくま式超球が関立が関する 本紙関松本社門底長、大部かの郷炭、外三記者

設置川向つて左から二人目

縣 松 版本 町

美

型北水

源

凌

玉

一澤工務

京落線水原高野山内 京落線水原高野山内

朝鮮運送株式會社朝 鲜 水 原 驛

冠 西 一一一 得

昭和那

ŧ

和旅放

水

合诚

加茂百貨

沉觀道水原

横江

古

取話一〇八折

近

藤

即

刷 所

松茜 七一番

ŀ

商

店

許

爕

體育日本。半島に

來る

とするのである。こゝにおいて、二千六百年の徹台部動の母夷は総てが須く。関筋のため々の道程を競進してある。

厚生省體育課長×友末洋

神崎

吳服

店

不二屋百貨店

水原豐場

德

幾野七平出張所東簽線水原驛前

配語 二三七卷

水原監翳小學校 水原證女學校

離万

種

操棉 木南北棉業株子

工式會社場

朝

水鮮

中央無盡

進店戲

釜線水原

友店長



原

醫師

春新之年百六千二紀皇贺奉而謹

水原城

井川好山水明門曾福日

太

水原本町二丁目

末

御料型

酸河兀 准 水原酿造作此 虹鶴

巴商會洋服店 電量 四三番

朝

取發就長 田川常治郎 取發就長 田川常治郎

正世 三四本 三四本

或

泉

信

水水 原 農

顶

原 郡 會廳

邑

四.實

木建築 非洪

育株 配式 水 * 場場

第

原

支 泚 店

合組校學原水 三坂今小器中影橋石 笠 西原電手。野雪林萬岩市島民山高本。川 雷藤 銀『喜』、虎 『英麗芳劇林の五望と『女女仏" 之『四』。之 『如『美祖一明郎第一『輔明大』即』雄 』助

澤 健 住 三 郎 業

水原郵便局 職

奎

能貨頭

磯崎建藏

水

原

支

店

話司

西亭

京城電氣株式會計京城電氣株式會計

上店社

朝鮮麵子群會

水

原

員

п

水原 織物工場

崔

在

水火

A

融

潭

寺

澤

拾

 \equiv

郞

中江

缺 制 台

今年は、関欧部派戦・の毎日

の平和建設の聖戦が展開せら 朝鮮體育協會長 鹽

原

頭

京南タクシ

東洋種苗珠會計

振霄口啄京城一六八〇〇番電

京遊椒水原縣門通り

萩

野

商

黑沼 力

南陽鑛山

水原郡陰德面北陽里 目 社:

水

の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	生	能	名 佐 々 木 高 島 屋	を用島昭陽通三丁目 まるつば旅館 10日春		本川 邑 会 議 貝本川 邑 会 議 貝を川 邑 会 議 貝	號一十五百
京城日報汇原支局	御料理淡路氣	人 武 常 次 春川學校組合管理者	高三松清大	金物商 高 橋 茂 雄帝川學校組合議員	所 張出組部	西大門刑務所春川支所京城地方專賣局春川 郵 便 局春 川 郵 便 局	
411	春川邑丹陽町電話二三番	馬上町プ	春川女子講習所江原道蠶業取締所	出張所 京城府本町四十目一四九十二 原 道 會 議 員江 原 道 會 議 員	矢城京 即	春川第一金融組合春川第一金融組合	(TEHORI
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	秋野 旅 館 衛	電話二七九番	部 江原道桑苗組合鄉 蘇維 八原道桑苗組合 東亞蠶絲纏春川出版所	工頁首廣義為會別會委都長 木 下 齊	坡 京 大 周 島 部 業 事 川 着 ൽ 光 川 自 ABB	朝鮮金融組しますとり	
春川邑宋町二丁目		電話三〇二番		朝鲜金融机合聯合會	分	:	大章
加平繁杂食長 加平那加平面色內里	加小醫察署本下高	村上九八郎	江原道林業協會	新 木 陽 一 新川殖産銀行支店長 春川 邑 風 縦 町 宮 宮	雄虎	新 新 新 村 上 九 八 耶	を示う大子
加平產業組合 學是 金 審 浩 建高三〇 奇	加平郡農會	前上		高橋 智之進	序立道原江 井 松 長院 和大邑川春 ○ - 西 R	朝鮮中央無盡來會社	連二紀皇亦
德 信 百 貨 店 鄉 德 西	加 不 郵 便 所 久所	新鱼菜 房 田 债 市	江原道鑛業協會	都一卷	會和親署 合組造々	江原道土木協會	皇/并
(A) 小	加不金融組合	新负素 佐藤庄三郎 北木建築 佐藤庄三郎 北木建築 佐藤庄三郎	江原道水產會	元 從 三	務 税 川 春 酒 鮮 朝 川 春	春川郡農會	
力合選	6 对合理	麦宾 宮內幾太郎			扇一	春川酒造株式會社	
京城府禮智町二五番地京畿道加平郡加平邑內里四四三番地京 城府禮智町二五番地		京城電氣株式會社	江原道農會	江原道廳	道原江	江原殖產株式會社 " 集	

この年愈よ發揚せん

ঞিক নিক্তা কি কিন্তু ক

へ到するお出も歌詞を見た式 のであります。このため内地 のであります。このため内地 第で天災とはいへ 選に消機に

哲館することが大切であれ、動の大計量を打ち得て

蓬萊

狩

朝鮮海運株式金統山府大橋通二丁日大番地

将會

釜山

綠町貨座

敷組

合

林

tili:

三田

洋

南原及

鮮而

神被服

工

īli.

賀

芳

俊

小凡科科

東町

Ш

一九八〇番 院

盆牧蓬盆

山島萊山

四酒酒額部

酒造造

沙 學

活山

三府 **外** 二六番 **科**

日本高周波重工業株 八式會社

三月末までには完遂 朝金聯會長

高瀬合

合

會

社

田順

村山

作品 明二フェル

間山

助

稅

捌

雜製製 山 佐糖 粉 府

货麵粉

丸

電屋 商

四番

商

會

育企山 社社府

松山

會株 山 社式 府

山町

兄弟商

H

府

顣

大倉 澤

回生

生 醫 院

第卷

犬

町

鮮燒酎

略和河類株式會社 大鮮龍造株式會社 大鮮龍造株式會社

朝鮮都市經營

支急會社

日本一瓜の園民は野に孫密の記 明時間も東部歌題第四年に入らんと

筆試相藏木青

紀之三年若年新春

大藏在青木一男

緩めぬ貯蓄の獎勵

石の開設を積極的にや に 財酬大阪の報報によっ

高

ビ級

夕奥

夕茶

電話二四八〇番

朴質

前發動機一**徐學龍商店** 戦銅原料→**徐學龍商店**

釜府

山大

海町

業

組

合

第11府凡一町 (起終點前) 金

一齒科醫院

慶尚南道水産

器 品 周

質入問屋 古銅古鐵 古銅古鐵 古銅古鐵 山府湖仙町 町一九三〇番地

徐次善商店

船製マ古釜 舶紙ラ銅山 械原口古 府 機科ブ鉱 盗

鎭商店

食 堂 員 一 同慶尙南道廳高等官 堂 員

迫 間 房 太

郞

朝鮮然山府大橋通奇工目於朝鮮統山府大橋通奇工目於

式會社

32 會株 社式 立石 胸 店

III 府 水 MJ.

釜山水產或會社

· 持三 Car

買船製力 缶 八舶級計 田機原内 屋械料鐵

信 電話牧局特 八九八番 榮 商 會

—(<)— **13** file MI

倘 附 道 產 業 部

慶

[n]店 來

113

m IE

同華

福州 (1)

田

商

何

黎山府大倉町三丁目

釜山

山腹造林式會社一

サロンカフエー

地話五八八番 五 五

釜山鐵道層務室

新四〇二〇番 楽病院

釜山清酒酒造組合

春

慶尙南道金融組合

就一十五	百五千一萬一	· EM	(可認性便應用三年)		载 国	城京	()	閱月)	コードー	- 华五十和时	(IE) 4-)
	久長	運通	軍軍	清饼	- BP	F2	面	迁	紀	曾	***
高橋敏	鈴 川 壽 男	山田忠次	山田新十郎	西岡芳次郎	鹽原時三郎	水田直昌	松澤龍雄	宮本元	三橋孝一郎	穗 積 貨 六 郎	大竹十郎
井坂圭一良	丹下郁太郎	高尾遊造	碓井忠平	柳生繁雄	井芹正	山下眞一	下飯坂元	北村輝雄	伊藤泰吉	古川衆秀	西龜三圭
田中保太郎	渡部肆耶	社	細見正義	李源甫	八木信雄	安田宗次	林勝壽	信原聖	岸	横井增治	木野藤雄
中間高州	野田新吾	松本誠	朴興植	莉 地 一 德	上內產策	白石甚吉	伊森明治	廣瀬博	梶川裕	美 根 五 郎	油井岱治
西山龍市	野田董吉	松原純一	山中清三郎	和田八千穂	柳樂達見	山中大吉	小林源六	鈴木文次郎	高木徳彌	見目徳太	武者鍊三
辻本嘉三 郞	井 上 主 計	淮 孝 芳 二	渡邊龍	野坂三枝	淺川巖次	佐野彦臧	遠膝竹義	新田留次郎	山下盐之助	中河原重吉	花園佐吉
原州金融組合	横山治吉	朴忠模	畑川正三郎	櫟木幹雄	崔雲鶴	萨 柳 東	香椎宗太郎	金 一 冰	大久保 寅 敏	竹下平三郎	宮林泰司

難

新

城大小川外科江田原氏夫人

昳 子

N

偲ぶ大楠公夫人

でも絶對になかったのです。

大邱印刷合資會社

1 0 MB

野顺

太

ИŦ

副

まれ四條畷の暇で展売される場けまれ四條畷の暇で展売される場合

杉

原邱

合席

資

會

社

唐

淮

大 游遊

は、一生殿師監督して成分で 肥出人の心はへをしてをり、 批雑は慰節城大の小川署先生 して力の限りお助けしようといと申してゐます、私も窓と 迎まなければならぬと

て限として婦人として前分ない道
を全うされました。六十二歳で天
のを纏られるまで作時を解る常城
と、微妙線の苦辺の生態、夫正成公
と、と微妙線の苦辺の生態、夫正成公
と、と微妙線の苦辺の生態、夫正成公

照泉夢業組合

度尚北道果物同業組合

北慶

土木建築業

不協會

官 北

同

醴泉

<u>(1)</u> 岩

醴泉酒造會社

松府東門町

商

大

邱

府

位話下七九番

葉にぴつたりいたしてあると花 私選女郎は年曜に當り、相写夫人

新·秦 光一商會

大邱產業株式會社

大

回

便

局

聞く越じてあます

二千六百年の登長院い器をお今年は朝戦第四年、疾に配元

正へしますことは何と確職い

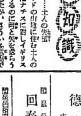
しい とっ生を通して 回れられない

も第一根で影響のために飛び













とが私無の一生を存む説にす のお正月を得到限にすごすこ何事も始まりが大切です。こ







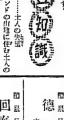
























中會

東

慶山酒造株式會社 邑 共榮自動車

大邱府錦町一丁目四番地

會

社

中大 牛等角 學 校 長 會

會 慶 北 M 艦

育株 社式

岸鈴兵教 本 沙 頭 清奈

人夫儁

方場賣

地大 Ĺß Fij

棟大

大井到

北二

证」以

電話八三四

大邱

料

FI

屋

組

合

坂市北道

本資

大

野

大尚 **FIS**

た

严

北 道 府

所屬各金融組合製鮮金融聯合會

子を育てる母達の反省

歌して本音の事をいってるのだとと。これはなるほど蘇密ではなく

って、脱載を織じるという様がなは信用がおけない。脱先の利に記 或る人々はいひます。 「生産

> 連に行成映構がは利し枝 町の製作技術は年々著るし

大に自動館に酸化するやう大に自動館に酸化するやうなはボッリンの頭の裏が一个健はガッリンの頭の裏が一個大は、一個大きないったは、大きない。

衙料理

甘

朝

鮮

酒酒造組合

りの問北

近台談山

tk1

聚酯

間測を膨けてゐるが今度

ばいにバラの別が指記する

科技

大邱商工銀

慶北貨物自動車縣

慶尚北道產業部長

璟

NO

泉

支店

朝鐵自動

主興業 熊

伊尚

膝

大二

祖和

信託から行撃 毎出現 の一番出現

が知り出ると忽ち四時円のでかくには開いています。 人のスイス人が中華の部の人には確認にスラの花の部の部内を開始によってもいた。

のたくつて、自分ではからなけれ、歌して本情の事をいってるのだとし、一般では、手供の前かで放ている。 は、「中の前かで放ている。 は、「中の前かで放ている。 は、「中の前かで放ている。 は、「中の前のかででいる。 は、「中の前のかででいる。 は、「中の前のが心をないすが、「親々の腿の中のうつばりを見てある。」 「朝鮮人の馬順ー」と原題つい、る事が多い。 の本語が正されば、これでは、「中の東に人の形にとか知れまされるいはゆる年級人の戦闘のない。 ていますまい。 各調の作清館に流して続けて有つたりします。本語が多いのを思い直さなければ、「日本はなって、「中の東に人間性の終題を、この中に、私程は私達自境の戦闘のない。」 これで、「「中の東に人間性の終題を、この中に、私程は私達自境の戦闘のは、日本に、「「中の東に人間性の終題を、この中に、私程は私達自境の戦闘のが、「中の東に人間である。」 これで、「「中の東に人間を対する」といる。

松」京城

小

林香黑

間

| 一日 四方坪、河域尚尹 | 11日 元崎須 | 四日 女事始の観 | 四日 女事始の観 | 四日 女事もの 他し今年に卸

月の家庭暦

風邪ひかぬ御用心

からの信言。時代とはいへ捨いたの信言。 すなしろー野草を用ひた古い、すなしろー野草を用ひた古い、すなしろー野草を用ひた古い。

立小學校一同

全社 **首** 大邱府北龍岡町五番地

電話長五九二番 組

陸市始份兵式。十一日

明 味しい私はマグロ、レンコ、ブリ 頭のてはならない。一月明的で美細 接、薬・葯その野鶏郎への製贮は 配縁のよでは、巻巻、牡形らの他

ſij,

醫

大邱府 鍋町二丁

根

電話

一帮 五二八 三八二 〇五八 番

6

食

山 村

瀬 戶 股份北道內務部

慶

倘 北 員 道 顣

朝鮮貯蓄銀行仁川支店	協同海運商合	取	新	仁川 支店	仁川工場	****
朝鮮商業銀行仁川支店	亞海運株式會	相日鐵造株式會社	具	京畿道産業株式會社	紡績株式會	-+ E.
朝鮮銀行仁川支店一朝鮮銀行仁川支店	杉割和回信	以是可兼行 罗 唐	1 2	京城出張所		
仁川金曜會印	详鲜鲜 斯里海 斯	社	電話一〇四八番	共同汽船會社	川 口 病 院	(T)
	連 俱	山本可	在	仁川鹽共同販賣館	10 1	
后 支 成 本 茂	力如如	业商業學 校長	仁川支店	能 要 投七一 六八 活	on · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Ğ.
會社	相対制度	吉	精米株式會	商新		
電話(長)仁川一三五三番	京 送 宣言川水水系可	仁川府會議員	等 宣局 仁川出張所	仁川工場		青久
仁川工場	振替口座京城1〇一1〇	小川好一	天 日 顧 安定派 再製廠 坂 資本工再製廠 坂 資	野田醬油株式會社	超出語	新長
日本車輛製造株會社	電 話 三 〇 九 四 番	便局長	仁川府花	促		之
	製造卸商 森袋工業社	武 田 鍜 太 良	仁川事業場 株式會社林樂商店	磁置地 帶货 物取 扱 人 組 合仁川稅關移出入不要申告貨物□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	î î	罗
朝鮮燐寸株式會社	折割 箱等• • 薄楊 板枝	H 答 大		電話一、一五一 安 樂	東唐長 大熊健次郎 朝鮮越遊機式食礼仁川友居	奉高り
仁川府金谷町三十三番地ノニ	衛科型 銀 電話一二二番	7	京 製 道 漁業組 合	- C = - -	大利田望雄	THE STATE OF THE S
工場(二川府萬石町)(一川府萬石町)(一川府南石町)(一川府)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川)(一川	山手町	仁川府令議員		- 豆 - 公丸大 山山黑	店仁川鐵	城に手
朝鮮木材工業。會社		电話二六三	仁 川 支 店	新企为印	11日存世リヒアー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	草
	常務取締役 売 木	饕·波佐間浩·	C. X - 1. K. C. II		1	系示
力正的資格式電流	會社 慶田 組	仁川府港町	常務収縮度 浦 崎	电震才长度 \ 最 方 才长度 丸八 材木店\ 仁川 製材所山下材木店\ 安藤材木店	M),	
コングミトンTL 一年川府北町	大友朝始继尊让二川弋里古	·	二川窯業株式會社	君星材本店(廣 仁 村 木八木材商組合	党 女 松 勝	皇併
		新秦署 長	電話一二三七・長一六三			R P
朝日釀造株式會社	仁 川 支 ル		森信運輸株式會社	仁川穀物協會	萬治豐喜	
仁川府桃山町四十七番地	一一一	令以 川 野 昌 美	1 1 1		中央酒造株式會社取締役仁川 朝 餅 酒 造組合理事富川郡富內面富平	G
۔ ر	二 可 本 が	3	野町四丁目	, i	家務質額役 萬、治、瓔、喜、雞種稅也益 崔 「炳 斗	
全班 深見 寅 市	下棄戶	所長 石 乳 第 五 南鲜納督府遞信局仁川海事田張所	仁川公立中學校	建一村組出張所	仁川朝鮮酒販賣灣會社	2
	藤瀬 取主武 「	界務収額度 全 井 省 三			支配人東郷	
神士 羽 日祖二川之吉 仁川府木町四丁日(建語五元・九六四)	当字グ	織月尾島遊園	木村 為 一郎 古 間 留 古	電話(長)支		I IE
株式 日 (金部東京大学) (本川府濱町1十月(金部東京大学) (本田東京町 (北部東京大学) (本田東京町) (本田東京町) (東京東京大学) (本田東京町) (東京東京大学) (東京大学) (東京大学	海 勝方會	代 田 繁 治	(語(4) 愛高野戦ニンセンテシリック・ 中立業 (金) 件 立 組 合 米雑穀 (金) 件 立 組 合	社長 鬼 頭 兼 次 郎 住川府西京町九七	青嶋鋪作	(5:+)

一 愛揚のごき 國家總力を

現態に原作物の歴史戦からさるもあり、中國、九州及中南戦地方の對内能には崩後二回に健る政戦が

億圓限度の特融に

層の努力をもて

朝鮮殖產銀行頭取

、韓の母親状況を御るに、流流、圧歩銘氏を中心とする場目中央政 大陸政策

重點主義採用

ودي احالا ليحنظ

輯

調朝鮮經濟

朝鮮銀行總裁

西水解原校业合的商员 曹 洒 愐 斶 都 會 員

東

滅

四水羅漁業組入四水羅漁業組入

剛

亭

1000 李

寅

翰

龍成商會

多大の階級を見て

原

國

所投

始

院里出張所

面協議員 李

泰

善

登張

企

瑞

公醫

朴

さらに根本に遡つて

新たな出發を期す

|||商工大臣|||

伍堂

雄

阿特斯

滥

安慰

東

川鐵工

所

縣价川驛前

四型

菊

田樂房

本町

延

企

H

基

石慶醫

· 院

作用部出山

整體 价川分工場

金

珠 秀

价川部的温润料

作品有限的前属期間

1

金川

淵

東山醫院

忧話二八番

湖浦縣价川縣山

作川田明弘前内帰軍

崔

精

職 員 一 同价川郡朝陽面

朝

院陽

醫

電話二九

西周院

東一

配

浣

漢榮齒科

碳山精鱼 金 用

元

紫樹科醫院

金

鳳鳴郵便所

所及 副田 伊肯

羅 价川百貨店 電 番 一 3 電 番 一 3

湖浦强价川层的

价川沙金事務所 聖教演案株式會社

贈贈 八浪 喜八 金属 您 周 文

作用 質的 图段

W

柳

最 朥

浣

里

驛

#式會社 价川 號業 所平安南並徐川郭徐川面東隅里

安安文 文

丸二運送店

日調

作

驛

和信連鎖店

' ea

西京權郵便局長越

門、施鐵衛山 星野

乘田已佐穗 忠 柿原義

京城府深洞町八四ノ二五

東山 東山 東山 東山 東山

章織

幾所

河端一 郎 ® 湖鲜運送株式會社 配源里代行營業所

東 亢明 羅迪 **价川和中市**加 据行业的 會 范 .水

金銀河縣 价 川

淳 郡 眩 顣

電場院

濟 公衆 電視 二九

价 川 企 **医** 采 說院

和 合 長 李

基 夏

价川部朝廷而減吸出

月、主要なる例防産製

金

春

植

利

荣酒造場

別進元 東

染

織所

亦さんは、耐人りしく、如水な

はしけやし青邮描く妓の顔をおもひ出でつつなを迎へぬ あたらしき春の日のもとほのばのと手觸りいとしむ前に

洛北

吉 井

「当川成金?見掛けによられもの

減ぬえて旅にか出でむ目をむるひ比叡を傾けば落あらた

金剛の山の風氣をおもひるぬ狭魔の花の姿のさむさに

ほつりと謎り、とさんしは、笑跳。

さて買ひ取つてみると、選続も

それは、主中のちゃうどの頃だ

**ルくらるの流れを渡って、
劃取に**町増れの衝離から、三百メート

剣よリペンの西部戦線

語さんは、平安自道の部門あた

めるとぶより

「あなたは、何匹へお借りですか

館に、紙細工の、削助のマトイの「金の力ですよっほら、あすこの

義 在 名 刺 即 即 即 即 別

の上の慰氏院や、坂の下の段間を

吉田 義 義 男 吉谷山陽堂印舗 黑野電氣工務 京城府北米台町九十三番地 世間本局 (1917年) 指

Œ 大鮮和和株

む

す

人同興業株式會型信運鎖店株式會型化信運鎖店株式會型 社社社社信

城 而奉賀皇却 林雅方魚津殿

ソスでは戦労が成以來手ばが、こゝに離らい話にフラが、こゝに離らい話にフラが、こゝに離らい話にフラをは、こっとはなり、 といいのが、 こっとはなりが、 こゝにをはる以上古の思はの方 一届八千萬道に放増を見たの屋は眼前の一千萬道から とフランス全國 | 日の手紙

る。その最大の原因

ので、私はまた個優した。 何といつて目ますか。希言んは

「この町へ來たのですよっちう被 野際はといって行名 明解鮮酒酒造組合

Щ

稅

務

田嘉太郎

五淺太郎

蔚

Ш

郡

魚

津

픱

和印刷所

早田三代吉

恒

=

山トラック管業所出版を作品を

九二千六百年之新春

岡田長兵衛

太田治

兵營職造合會社

四谷寫眞館四谷寫眞館

安成

商

容

釆

職 H

員郵

一便

同局.

尉

辛

岛

皐

鶴

無線電信局一同一

原即日

蔚山水利組合

頂

冰

榆

浦漁業組合

加料 支店

蔚

Ш

金

臞

會

魚津金融鐵

游山殿長會

醫友

會

蔚山產業組合

游山

叶

方魚津酒造株式食社

蔚山商事物會社

公园

烂

陽產菜組合

東華

洋

行

他断本局(2)三九九二者

京城府黃金町一丁目一八〇番地

高田勝世 蔚山聽造路會社 #:

三幸

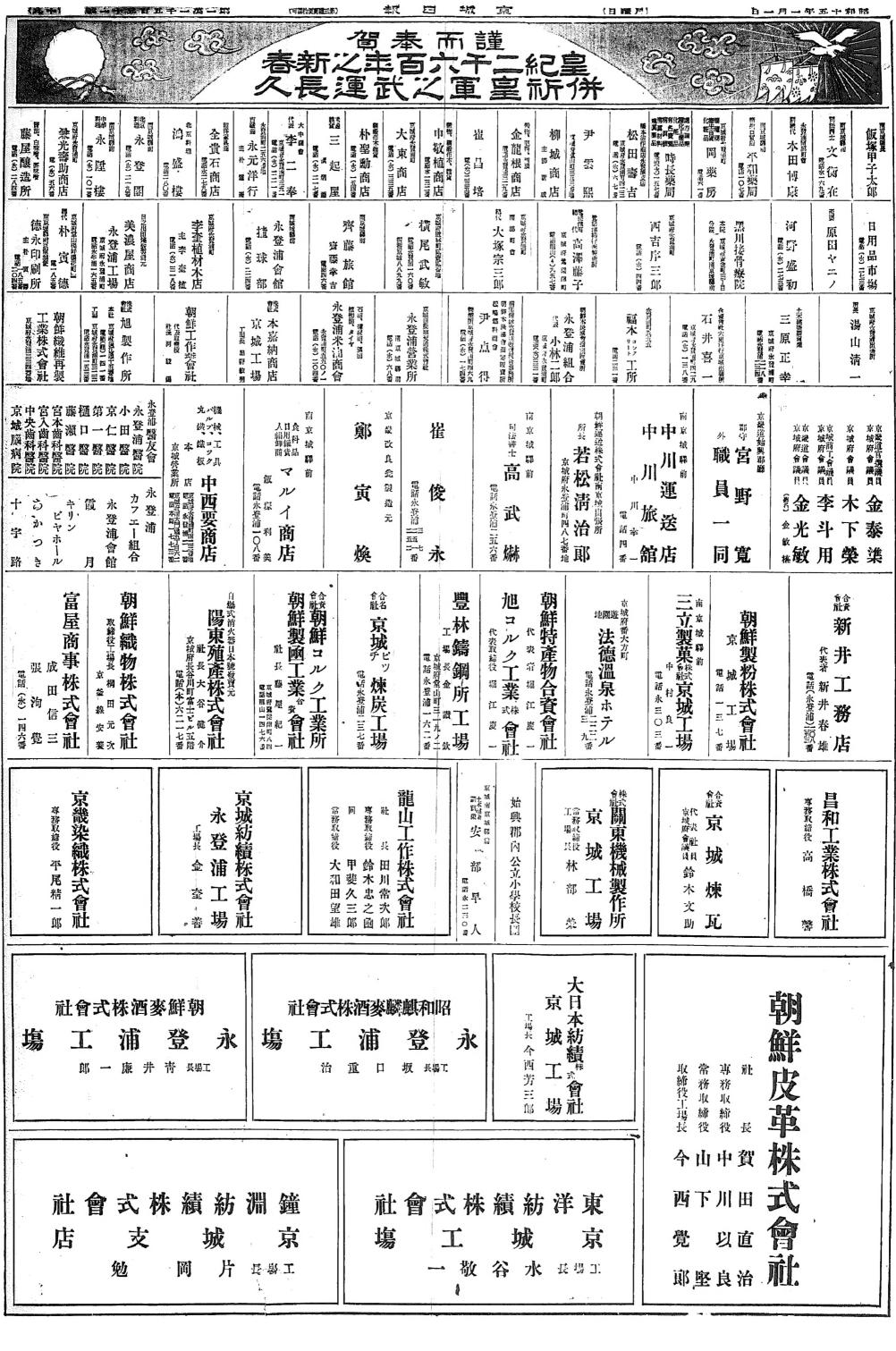
京城出張所 **電話前山長二八七番**

代表包話本局3七一七一番

會 株社 式 半島ホテル

富山縣 加屋 雅湖 加 館

建築 調負業 岩 崎 組金山府草梁町



宮館鑑定部高島易斷神

松田定

けふまでのあらずち
安兵領に幼に

龍齋貞山(演) 健三(高)

6日の馬場に行型だす。その指摘りた技術が縁で帰部家の居となり日ならずして非紫の死を違げ、この値を安兵衛が

再び治野侯に仕官の母となった、甲移り

罪 置田 卑人 延安金融組合

入江

敎

四鮮合同電氣 延安營業所

職

員

同郎

鬟 中込欣

延白公立部常小庫校

上田 材 木店 田 蹑 屏或道处百部白川温泉縣的

兼造





延安第二金融開

京城

^{集監}旅 ^海富舘

近山區

Ė

安前事

日川



主 張 斯 旅 第二元

白川人力車部

主朴

캛

四回九四

番番番番

岩崎

崎

武

所

金

☆アフリカ……弥鳴ちしい道路 タイプライターを利用出来ます

カーボン、切手の完備してあるかり根値を落し込むと文別具、 コペンハーゲンの間では対しば

海外ニユース

法明らしい道路が完成しましたの首都アデス・アピバとの間に 紅海に盛むアサプとアピシニア

この道路には千五百八十四の様

たるもの一見キリン然たる感じ配が想化してそれに厳党が配し

各國龍玩具物語

京都東福寺巡堂天井の龍

海域崩壊機能 延安縣長

亥

之

新樂

事学

安邑

員

釜山朝鮮酒酒造組合

卷山稅務署職員一同

聖

延

郡

會

荒山

井前

旅

舘

門語[記]

延白米穀統制組合

白川藝妓組合

電話四番

延

五『ウム、二三日前常家へ家米とったんで』 靈安岡

幸

營

ホテル

天

方申金張徐

市

九建顥

小 林

林

延安營業所 所長 佐川安兵物

同義 内吗 李音 ダイヤ

旅 舘

室 內 溫泉 首川溫泉

ホ

テ

普生生

殴

御料理化 = ^九仙

代表電話四〇〇五番

南鮮合同電氣株式會社 釜 Ш

店

香 椎 源 太 郎

朝鮮紡織株式會社

釜山府凡一町

漢城黑行延安殿 延安長業學校 職 員 一 I 延安商工協會 同所 黄延 延 海海 安 水水

利利

組組

合合

西尾角

减

職員一同

· 機橋食堂木店 黎山府大食町四丁目二十七嶺畑

10世二十六番

帮府與物權咨詢

朝鲜開拓株式育社 延 警

防

團

福島源次郎

田三玉男

整 林 樂 商 店

补髓

*性

⋼俊

品

应所

部 山 支 店

海金融組合

中華 茶

東 | 東

М

町 茶

商二〇十 。店

朱

根

ïf

企

門住式西北

绘山府中岛町一丁日

多言丸玉

會

舘

海營業所

安鈴內森區含 岡木田 *** 莊 嚴醫雄郎 柿 添猪十

郎翼

酒造器合社

郷、以一角、カードの海、後一間マルニ的。

温が音音の

延 白

H: 太 同耶 亚山府本町二丁自十六番地 **企山府湖仙町七六沿地** ء 戸 **加部八二三八番** 田

組

海朔鮮酒器

郷 入一**九** 衛 後 八 九 衛

徳商會

電話 二九七七番

理 支部長

中央印刷所 植置 田間 義夫

熊釜山商船組 愈涯出技 + 同臼長 中秀

不四自動車或會社 自 川 智 東 原

禹安

夏

榮

金剛

監論館

文 田 呂 逢 雄 東 納品 係 出席几一町 松

卷山大橋通 宗 海

無以明日 組金山殿 無以明日 組金山殿

釜山府寶水町

カフェー白馬會館 電話八八一番